

## 生きている本と対話する図書館

# ヒューマンライブラリー

☆ヒューマンライブラリーとは…？

2000年にデンマークの若者たちが、北欧最大の音楽祭であるロスキレ・フェスティバルで始めた「人を貸し出す図書館」です。

社会の中で誤解や偏見を受けやすい人々が「本」になり、一般「読者」と対話をするこの「図書館」は、瞬く間に世界中に広がり、現在では70か国以上で開催されています。

日本で初めて行われたのは、2008年。東京大学先端科学技術開発センターが京都国際会館で開催。その後、関東を中心に多くの大学、民間・市民団体、個人によって開催されてきました。

日時:2020年10月11日(日)

時間:13時～17時 (16時30～交流会)

会場:オンライン(ZOOM)

参加費:無料

☆当日は6冊の本をご用意します。

☆定員:24名

☆読書は1グループ6人で、3回の読書時間があります。

☆16時30分～17時では、本について聞いてみたい

ことがある。HLについて詳しく知りたい方を対象に交流会を行います。(自由参加)

\*ブックリストは裏面(2枚目)をご覧ください。

世界に1つだけの本を  
をご用意します

【お申込み】学生団体 SMILE HP(ヒューマンライブラリー特設ページ)よりお申込みください。

【お問い合わせ】学生団体 SMILE <<https://smile-memory.jimdofree.com/>>



主催：学生団体 SMILE

協力：株式会社 hitajico, 公益財団法人京都市ユースサービス協会

## ☆ブックリスト(本の紹介)☆

### Aグループ

○小島拓也 irodori 代表 『うちの会社には、あなたの弱さが必要です。』

大学卒業後、新卒入社した会社で初めての挫折を味わう。その後、働くことはするものの、やりたい事は見つからない。人間関係で仕事が続かず、職を転々とする。「働く」を通じて、経験してきた様々なこと(失敗や挫折など含めて)を中心に、自分の「弱さ」にこそ、「価値」があることを伝えます。

○松本健吾 hitajiko 代表 『答えのない時代の不安との闘い』

答えがあるようで答えがない。自由なようで自由でない。繋がっているようで繋がっていない。そんな時代に京都大学の4回生だった私は、自分が何をしたいのか、自分の価値が何なのか、誰を信じればよいかわからず極度の不安に襲われた。その状況からもがき苦しみつつ自分の軸を見つけるまでの話。

○さーちゃん 学生団体 SMILE 所属 『超低出産体重児で産まれた私のお話』

1398g で産まれた私。抱えた障害の数は多いけど、障害がなかったら出会わなかった人達との出会いがあり、大きな手術の決断とその手術を乗り越えるには家族の存在がとても大きかったです。私は今までの人生でたくさんの人との出会いがあり、たくさんの人に支えられています。障害を抱えた事はマイナスの事ばかりではありませんでした。「歩くこと」「走る事」「言葉を話す事」すべてが私にとっては当たり前ではありません。今までの私の人生と、その中でいくつかの私にとっての大きな出来事をピックアップしてお話します。

### Bグループ

○おじさんA 『見えなくなって見えること ~うつヌケ2回の視覚障害者~』

20年前に進行性難病の網膜色素変性症と診断され、現在の状況は「両眼の視野10度以内かつ損失率95%以上」。うつ病も2回経験し、休職したこともあるけれど、今は経歴を活かして、関西でヒューマンライブラリーを広める活動をしています。「人生には何があるか分からんなぁ~」というお話です。

○OM 『CRPSと闘い続けて得たものとは』

2013年6月12日水曜日、これは私がこの病気と闘うことになった最初の日です。そこから高校3年間、決して楽しいとは言えない日々を送り、肉体的にも精神的にも限界を感じていました。そんな時、ある病院に1か月入院することになり、そこで私は大きく変わることができました。高校3年間と浪人時代1年間の闘病生活で得たもの、現在の私、私の思う未来について体験をもとに語りしたいと思います。

○Ten 合同会社Ledesone代表 『今の自分だからこそ出会えた経験』

小3での自殺未遂、新卒で入った会社を2か月で退職。LDとADHDの当事者。そんな自分でも様々な経験を得て今は会社を立ち上げて様々なプロジェクトを展開していています。会社のミッションは「誰もが過ごしやすい社会をつくる」そんな自分と自分がやっている会社のこれまでとこれからをお話します。